

火災の多くが「ついで」「うっかり」といった不注意から発生しています。昨年札幌市内では、四百四十五件の火災が発生し、その中で中央区は、市内十区の中で一番多く八十五件でした。火災を少しでも防ぐには、どのようなときに気をつけるとよいでしょうか。

**主な出火原因と
防火のポイント**



放火

放火は、常に火災原因の上位を占めています。深夜、人目を避けて行われるため、普段から放火されない環境づくりが大切です。



防火のポイント

- ①家の周りには燃えやすいものを置かない。
- ②ごみは、決められた日の朝に出す。
- ③物置、車庫などには鍵をかけ、外出時などには戸締りを確認する。



こんろ

こんろ火災の多くがてんぷ

ら油からの火災です。もし、てんぷら油火災が起きた場合は、消火器で消火するのが最も安全です。水をかけたり、野菜を入れたりするのは、炎が一気に拡大するので大変危険です。



防火のポイント

- ①こんろから離れるときは、必ず火を消す。
- ②こんろ周りは、整理整頓し、グリル内は定期的に清掃する。
- ③古くなったガスホースは使わない。



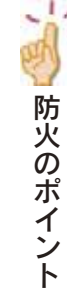
▲消火器を使った消火体験



たばこ

たばこの火は、すぐには燃え広がらない場合が多く、外

出や就寝後に出火するケースがあります。たばこを吸うときは喫煙マナーを守り、喫煙後の消火を必ず確認しましょう。



防火のポイント

- ①寝たばこ、くわえたばこ、投げ捨ては、絶対にやめる。
- ②吸殻の火は、完全に消す。
- ③灰皿には水を入れ、必ず灰皿のあるところで吸う。
- ④吸殻は、水に浸してから捨てる。



ストーブ

ストーブの火災は、ほとんどが冬の時期に起こります。使う人の不注意で発生することが多いため、取り扱いや設置場所には、十分な注意が必要です。



防火のポイント

- ①燃えやすいものの近くや物が接触・落下する恐れのあるところでは使用しない。
- ②外出時、就寝時にはストーブを消す。
- ③給油や持ち運びは、火が完全に消えてから行う。
- ④給油は、灯油であることを



▶バケツリレーで消火訓練

- ⑤安全のため定期的に点検を
行う。

ご存じですか?



住宅用火災警報器等の設置が義務化されました。新築住宅は平成18年6月1日、既存住宅は20年6月1日から適用となります。お問い合わせは、各消防署へ。また、パンフレットについては、中央消防署・各出張所および区役所でも配布しております。

※消防職員や市の職員が、住宅用火災警報器などの訪問販売やあっせんを行ったり、特定の業者に委託したりすることはありません。訪問販売などでお困りの際は消費生活相談室（北区北8西3 ☎728-2121）にご相談ください。



もし、火災になったら…

◆助けを求めよう

火災を発見したら、まず周りに知らせることが大事です。大声で助けを呼びましょう。また、建物の中では非常ベルなどを押し、周りに知らせましょう。

◆通報しましょう

慌てず落ち着いて「119番」へ通報しましょう。「火事」か「救急」かははっきり言い、正確な住所を伝えることが大切です。